

**平成 24 年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「直入庄内区域」 議事概要**

1. 実施日 平成 24 年 7 月 10 日(火) 15:00 ~ 18:00

2. 場所 農林水産省 農村振興局 第 4 会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
安藤 光義 東京大学大学院准教授
加藤 いつ子 竹田市直入地区地域審議会副会長
山路 永司 東京大学大学院教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他

(独)森林総合研究所森林農地整備センター総括審議役 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長の選出

山路委員を選出した。

(2) 事後評価(案)について

事務局より説明を受け、質疑し了承した。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本地域では、農業用道路の整備による地域交通の抜本的改善に加え、区画整理及び暗渠排水事業により、中山間地域の農地の集団化が図られ、水田自体の基本的な仕様が高まった。その結果、大型機械での耕作等が可能となり、個人が工夫して農地を残そうとする意欲が向上し、貸借等による更なる土地の集団化が図られ、耕作放棄が抑制されている。また、いくつかの集落を束ねて設立された集落営農組織が行っている機械作業でのオペレーターの安全が確保され、作業の効率も向上しており、集落営農組織が作業を受託することで個人の保有機械への投資が削減されてきている。

本地域では、高齢化、過疎化による労働力不足が進んでいるが、畜産や施設園芸では新規就農者やUターン者等が見受けられ、意欲的に営農が行われている。また、本地域では濃厚飼料を削減し、地場産の粗飼料を主とした畜産経営に取り組んでおり、この畜産経営を後押しする畜産センターにキャトルステーションを建設したことから、子牛の世話をする必要がなくなり親牛を増頭でき、畜産経営

の規模拡大につながっている。

集落営農組織の構成員も高齢化が進んでいるが、若い構成員や専業農家が中心となって運営を担っており、新たな作業員確保のため、退職者等の受け入れを進めながら組織の存続に力を入れている。本地域の水稲を中心とした農家にとっては、転作の主作物として飼料用稲、飼料作物等の作付けを通じての耕畜連携を行っており、結果的に中山間地域の水田が保全されている。

本地域は繁殖経営が中心であり、大分県が推奨するブランドである“豊後牛”への取組みはまだ途上にあるものの、耕畜連携による土づくり、自然に恵まれた良質の用水による米作り、飼料作物作りが推進されつつあることを踏まえて、地域ブランド化に向け、地域が一丸となる体制の確立と推進が望まれる。

(以上)